

令和5年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞受賞

## 荒川クリーンエイドで 豊かな荒川を次世代へ

東京都江戸川区 特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム

### 活動内容

クリーンエイドは「クリーン…きれいにする」+「エイド…助ける」から成る造語である。「きれいにして自然を助ける」といった意味がある。荒川クリーンエイドは1994年、高度経済成長期に汚染された荒川の自然環境を再生すべく、建設省荒川下流工事事務所（現・国土交通省荒川下流河川事務所）の呼びかけで始められた。その後、活動は国のバックアップを受けつつ市民団体が29年にわたって継続してきた。

荒川クリーンエイドは流域間の団体の力を結集して、荒川の自然環境を守る活動である。荒川の自然環境の保全・再生を目指して、荒川流域の河川敷各所におけるごみ拾いをネッ

トワーク化して実施している。

荒川の河口部〜上流部（河口から128キロメートル）において国土交通省を始め、沿川の秩父市、さいたま市、足立区、江戸川区、江東区など11市9区2町から活動への協力が得られている事例は全国でも唯一である（荒川の流域人口は全国屈指）。

産官学民などの主体がそれぞれで参加者を募り、「調べるごみ拾い」を実施。

「調べるごみ拾い」は48項目に分類されたごみの回収個数を種類別に集計し、記録するものである。調査結果からは様々なメッセージが得られ、活動後の振り返り等で参加者と共有している。

数多く1000名以上といった様々な規模の団体が活動し、2022年は196回の活



清掃活動風景1

動において延べ6408人が参加し、荒川から6043袋（45リットル換算）、1601個の粗大ごみが回収された。





清掃活動風景 2



清掃活動風景 3



清掃活動風景 4



清掃活動風景 5

「調べるごみ拾い」でごみそのものを減らすことを訴える。荒川のごみをなくすには、過度な使い捨て文化を変革する必要がある。

### 【メッセージ性】

### 現在までの成果等

ごみ調査の結果、2022年の調査活動では合計1万1413本のペットボトルが回収された。荒川の環境のみならず海洋への流出を抑制できた。  
参加者一人ひとりが荒川ごみの現状を認識し、ごみ減量のライフスタイルを考えてもらうきっかけづくりを進めている。

当該事業は1994年の早い段階からNP〇と行政・自治体が協調して、河川環境を保全してきた事例として、国内でも先駆的である

### 【モデル性】

「調べるごみ拾い」は、ライフスタイルを映す鏡。例えば、ペットボトルの生産量とともにペットボトルごみの回収量も年々増加している。これらの結果を広く市民へと発信し、私たちが荒川とどのように歩んでいくべきかを共に考えることに力を入れている。また、荒川のごみを除去し、動植物の生育・生息場を健全に機能させることで生物多様性を保全し、次世代へと譲り渡す。

江戸川区や江東区の複数の小学校へ向けた

### 【次世代育成】

る。近年、G7サミットなどでも海ごみ問題は頻繁に話題に上がるようになり、海ごみの約7割は川ごみ由来であるといった結果が出ている（かながわ海岸美化財団調査結果）。河川管理行政は全国的に川ごみ対策を推し進める必要性が出てくると推測され、そのモデル事例として本プロジェクトは全国のモデルとして発信できると考えられる。  
また、生物多様性の保全に主眼を置いた取り組みとしては、令和の里海づくりモデル事業も展開している。



環境教育授業を展開している。荒川河川敷に生息するベンケイガニ類等の観察や、生物の生育・生息場としての環境や、伝統的な漁法なども紹介している。また、次世代の担い手となる大学生を巻き込む活動も積極的に展開している。その他、親子を対象としたプログラム作成等、多様な世代が参加できるようにしている。

【地域活性化】

荒川クリーンエイドは開かれた活動であり、沿川の住民や企業など様々な参加がある。老若男女を問わず様々な世代の参加がある。



清掃活動終了後1

荒川クリーンエイドと連携した「ふるさと清掃運動会」などの大規模イベントも立ち上がっており、地域の活性化に貢献している。沿川住民は荒川から多様な生態系サービス（恩恵（供給、調整、生育・生息地、文化的サービス）を受けており、荒川を健全な状態に保つことは日々の生活においても重要であると言える。

【独自性】

NPOと行政・自治体がここまで強固に連携して、河川環境を保全している事例は全国でも希少かつ先進的である。NPOとしての



清掃活動終了後2

存在意義も確立されており、独自性の高い活動と言える。

荒川クリーンエイドは、川ごみ対策だけに留まらない。最近では、企業の社員研修の場としても受け入れられており、サステナビリティと人材育成を同時に達成している点には高い独自性があると考えられる。

（特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・

フォーラム職員 赤城 稔）



回収したごみ